

【参考資料】

2010 年度のまとめ

1. 2010 年度のまとめ

(1) 2010 年度の事業方針

(ア) 2010 年度は以下を事業方針の基調として事業活動をすすめてきました。

「組合員が自ら参加し、身近に感じる生協」をめざします。

店舗の基盤づくりと組合員の利用実態に合わせた店舗運営を行います。

「魅力ある大学づくりに貢献する生協」をめざします。

(2) 2010 年度の活動のまとめ

(ア) 課題 「組合員自らが参加し、身近に感じる生協」をめざします。

- 学生委員会を中心に、組合員が直接お店や商品に関わることでできるとりくみをすすめます。
- 学生生活実態調査やアンケートなどで組合員の生活を深く知り、組合員の関心や実態を踏まえた取り組みを行うことで組合員の参加を広げます。
- 「一言カード」や「利用者アンケート」などから具体的な要求の実現を行います。
- 学生委員会を中心に、組合員同士が交流しコミュニケーションを広げる取り組みをおこないます。

学生委員会とともに、組合員が直接お店に関わるとりくみをすすめることができました。

- 改装した第 1 食堂のネーミングを組合員から広く公募し、154 通の応募の中から理事会での選考で“ Dining TERRA ”と命名しました。
- 学生委員会を中心に、「大教大オリジナルキューピー第 2 弾」を募集し、100 通を超えるデザインの応募、300 通を超える最終投票の結果、「いのししキューピー」が商品化されました。

一言カードは、職員を中心にとりくみ、投函数・実現数ともに昨年を大きく上回りました。

- 投函数は 330 通を超え、約 3 分の 1 の声は実現することができました。また、回答を掲示する際に用紙を色分けし、実現した声をわかりやすく伝える工夫をしました。
- 学生生活実態調査でも一言カードの認知度は 93.2%と前年より 2.4%アップし、「知っていて利用したことがある」人も 10.7%と前年を 1.6%上回っています。(全国平均は、認知度 71.0%、利用 6.9%)

学生委員会主催の企画には多くの組合員が参加し、仲間づくりや健康づくりが進みました。

- 新入生の友達づくりをサポートする新歓企画は「たこ焼きパーティ」に 135 名、「アウトドア企画」に 20 名と多くの参加者が集まり、たくさんの新入生の大学生活への不安を解消することができました。
- 7 月に行った「サマーフェスティバル」は、雨天にも関わらずステージ企画や流しそめんなどに多くのサークルメンバーを中心に 150 名ほどの参加者が集まり、各団体の成果発表の場にもなりました。
- 今年度は交流のみでなく、「健康を考えるとりくみ」として 7 月に「健康 Check!」を実

施し、食生活相談やアルコールパッチテスト、各種測定などを行い「私の健康カルテ」を一人ひとりに手渡して健康について考えるきっかけづくりを行っています。これも雨天にもかかわらず、150名ほどが参加しました。

学生生活実態調査での組合員からの生協評価は、2009年度から若干点数を下げているが、全国の大学生協の中では、組合員からの評価は引き続き高いクラスにいます。

- 生協はあなたにとって身近・まあ身近 93.4 91.7% (全国平均 88.2%)
トータルで見ると生協を好き・まあ好き 90.1 89.8% (全国平均 86.3%)
- しかし、さらに一人ひとりの組合員が「生協を身近だ」と実感できるように、さらに多くの組合員が店舗や事業へ関わり、「関わったと実感できる」場面を増やしていくのが課題であると考えます。

(イ) 課題 店舗の基盤づくりと組合員の利用実態に合わせた店舗運営を行います。

- 店舗のQSC(クオリティ、サービス、クリンリネス)レベルの向上にとりくみます。
- 提供する商品・メニュー構成が組合員に指示されているかどうか常に点検し、改善を図ります。
- 適正な剰余を残し、組合員への還元や施設改善のための投資ができる店舗運営を目指します。

店舗のQSCレベルの向上のため、下記のような改善にとりくみました。

- 混雑して利用しにくかった第2食堂のバイキングコーナーを、左右対称にして並ぶ列が交錯しないようにし、温蔵庫を導入して品切れ・品枯れのないようにしました。
- 第1食堂は改装してDining TERRA(ダイニング・テッラ)として生まれ変わり、清潔で気持ち良く利用していただける環境になりました。各店舗ではチェックリストを用いながら、日々のクリンリネスに取り組んでいます。
- サービスレベルの向上のため、外部のお店を見てよいところを取り入れる「ストアコンパリゾン研修」にパート職員・正規職員が参加したり、全パート研修でも同様にストアコンパリゾンを行い、自分と自店のサービス向上に取り組めました。

2010年前期は残念ながら客数が減少しましたが、その原因を探るために聞きとり式の「昼休みアンケート」に取り組み、その結果を受けて下記の改善に取り組めました。

- ホールの混雑を避けて利用者が減っているため、食堂の時間差利用を呼び掛け、その促進のために「早期退席者にライス割引券の配布」を行いました。
- 購買部の価格に対する優位性が少ないとの声に応え、期間限定で「5円引きセール」に取り組みました。

2010年度はDining TERRA改装の経費執行が約2,000万ありましたが、適正な在庫管理による粗利益率向上や人件費の抑制で、生協全体では2.6%(前年2.1%)、購買部で6.0%(前年6.3%)、食堂部で11.5%(前年12.6%)の経常剰余を残すことができました。

- 供給高(売上)は前年に比べて6.5%売上が減少していますが、その多くは大学の校費利用の減少によるものです。日々の食品や食堂の利用は前期落としつつも後期に回復を図ることができましたので、今後とも日々の客数を増やすことに注力しながら、適正な経費の執行を行うことで、できるだけ早く累積赤字を解消していきたいと考えます。

組合員の満足度の指標としている学生生活実態調査の結果は、購買部・食堂部ともに2009年度より数値がアップしました。

	購買部		食堂部	
	10年	09年	10年	09年
総合評価（10点満点）	6.9点	6.7点	7.3点	7.2点
欲しい商品（好みのメニュー）がある	50.4%	46.9%	65.5%	64.6%
明るい雰囲気・職員が親しみやすい	82.6%	75.7%	68.9%	68.7%
店内がきれい・店内が明るく清潔	83.9%	75.3%	77.7%	57.7%
*経営数値（経常剰余）	5.9%	6.8%	11.5%	12.6%

(イ) 課題 「魅力ある大学づくりに貢献できる生協」をめざします。

- 大学の第2期中期計画に沿って、生協が貢献できることを積極的に大学へ提案します。
- 「学生の学びと成長」を支援する事業や就職支援の取り組みを強めます。
- 「大学生協らしい環境活動」を通じて、エコキャンパスづくりに貢献します。

2011年採用の教員採用試験を受験する方のための対策講座を、学生サービス課や就職支援実施委員会とも協力・調整しながら実施してきました。

- 2010年6月実施の「直前講座」「面接対策講座」はいずれも人数が50名前後となりましたが、2010年10月から、次年度（2012年採用）に向けた新たな取り組みをスタートさせています。大学の取り組み・講座を補完する事業を今後も行い、「より多くの教員志望の学生がその夢を実現できるように」取り組んでいきたいと考えます。

毎年取り組んでいることですが今年も、大学が地域と共催する行事や留学生支援、大学への寄付など以下のことに取り組みました。

- 柏原国際交流フェスティバルや、柏原市民総合フェスティバルでの協力
 - 留学生後援会への参加と冠奨学金の贈呈
 - 自動販売機の売上からの「学生支援」のための寄附（2009年度3% 2010年度4%）
- 「学びと成長」を支援する事業やそれ以外の大学への提案活動は、あまり実践できていません。

- 第2期中期計画の2年目となる2011年度は、生協窓口の学生サービス課との定期懇談会はもちろん、大学がどんな方向を目指し進んでいくのかを踏まえ、全国の大学生協に学びながら「魅力ある大学づくり」のために、生協ができる「学生支援」を大学役員の方へも提案していく必要があります。

「大学生協らしい環境活動」も、これまでの「ホッかる容器」の回収等の実践にとどまりませんでした。

- 学生委員会とも協力しながら、生協事業を通じて貢献できる環境活動に取り組んでいくことが今後の課題です。

以上